

同 二十三日 第二大形支部全体會議 出席者一八〇名  
 同 二十八日 堂山製鐵外三工場全体會議 同 五八〇名  
 同 日 運輸部東田現場全体會議 同 一〇九名  
 同 三十日 動力部汽機係全体會議 同 三四名  
 以上の外連日連夜應酬談會、役員會等を開催し反響氣勢を昂  
 めつつあるが第二回の製鐵所訪問にて一應交渉打切の形とな  
 つてゐるが、目下渡邊所長、鎌谷總務部長等上京各關係本營  
 と交渉中につきその歸嚮を待つて再び折衝を開始するであら  
 うが共済組合積金増額に就ては現在組合員と會社との負擔が  
 一歩遠ひであるから百分の十五を同様一歩遠ひとして百分の  
 八と百分の七とする方法と現在の負擔率たる組合員五二・八、  
 會社四二・二八の割合を以て増加額を按分する方法又は百分の  
 十五を退手法に基く率に依つて負擔すると謂ふ三つの方法が

ある様であるが製鐵所の意旨としては一歩遠ひの八と七とに  
 したいと言ふ考の様であるが本問題に従業員に於ても幾分の  
 増加は已むを得ずとの見解に立至つてゐる關係上何等かの方  
 法にて解決するものと思はれるのであるが資金値上問題に就  
 ては周圍の環境状態に基き相當の紛糾が豫想せられ各方面へ  
 の影響が重要視せられてゐるのである。